

■活動内容

地域での支え合いの推進を図るため、それぞれの事業活動を通して、実際の事業活動以外に高齢者が自立した生活が維持できるような支援やサービスを提供する取り組みを行う事業者を支え合いの推進事業者として登録する制度です。

【具体的な取り組みの例】

- ・買い物時の支援、商品の配達
- ・高齢者の雇用、交流の場、特技披露の機会の提供
- ・電池交換や部屋の模様替えなど、暮らしの困りごとへの対応

■団体名	近江八幡市
■参加者	平成31年1月末現在 16団体登録 ※詳しくは市HPをご覧ください↓ http://www.city.omihachiman.shiga.jp/contents_detail.php?co=ser&frmId=14362
■活動拠点	近江八幡市土田町1313番地 近江八幡市福祉保険部長寿福祉課 TEL：0748-31-3737

■活動のきっかけ・実現までの経緯

地域独自の社会資源を有効に活用するため、住民主体の地域福祉の推進とは別路線で、「商助」と銘打って官民連携を推進しています。

有識者を招いた商助推進会議やセミナー、シンポジウム等を通じて、民間事業者等と合意形成を得つつ、しくみづくりの検討をしています。

利用者さんの声

・コミセンが近いし、コミセンまで行くのも運動になります。買い物支援が始まるまでは、定期的に行く機会もなかったです。ちょうど免許を返し、この辺は本当に何もなし、大助かりです。

・毎週コミセンまで自転車に来て利用しています。休んだことはありません。運転は得意ですが、子どもを安心させようと思い、やめました。

活動者の声

・「商助」という言葉には、最初違和感がありましたが、商売の「商」は秋に物々交換を行うのが語源なんですね。それが経済、社会になって貨幣が流通して、ものを買う中でお互いが成り立つ、まさに「三方よし」ですね。その仕組みだとわかったときに、「商助」は素晴らしい言葉だと理解できました。

・買い物支援の利用者さん75歳以上の方が、健康推進員と一緒に料理教室を開きました。みんなでいろんなお話をしながらワイワイと料理を作って食べ、楽しい時間を過ごすことが出来ました。今までお話をしたことがなかった人も買い物支援をご利用いただくことから、コミュニティセンターを拠点にさまざまなつながりが生まれています。この輪をどんどん広げていけたらいいなと思っています。

■活動に対する思いや目標、継続するノウハウ

単なる地域貢献ではなく、近江商人の三方よしの精神を地域活動に活かす商助の概念を言語化することによって、理解促進、定着につながりました。民間事業者、住民、地域包括支援センターやコーディネーターの参加する商助推進会議において、アドバイザーの牽引の下、目指すべき姿の共有を丁寧に行いました。